産業保健 ● Book Review

ココロブルーに効く話
精神科医が出会った30のストーリー

著書：小山 文彦　発行：金剛出版　定価：2,970円（税込10%）

本書は、読売新聞社の医療サイトで連載された人気コラム「ココロブルーに効く話」から、著者が特に印象に残るエピソードを再編集したものである。季節の流れに沿った形で、医療現場での30の物語が丁寧に展開されていく。長年にわたる主治医や産業医としての経験や、一人の生活者としての実体験に基づく内容はとても説得力を持っている。

本書には、仕事や人間関係の悩み、大切な人との別れ、発達障害、依存症、コロナ禍での心の問題など、さまざまなテーマが登場する。そして解決の糸口もまたさまざまであるが、著者が一貫して、対象者をフラットに捉え、個々の思いに真摯に向き合う関わりのなかで、本人や周囲の方々の心が解きほぐされていく印象を受けた。本文にも書かれている「時には一歩遅れて伴走する」といった姿勢は、温かさだけでなく、冷静な判断が常に根底に流れており、医療従事者としてもたくさんの気づきを得ることができる。

特に、産業保健職にとっては、対象者との関係性の築き方、声かけの言葉やタイミング、対話を広げるプロセスや周囲のサポートなど、実務で役立つヒントも多く詰まっている。心のケアに携わるすべての人にとって、おすすめの1冊である。

矢内（やない） 美雪（みゆき）
（キヤノン株式会社人事本部安全衛生部副部長）

Scramble 情報スクランブル

日本産業衛生学会から「化学物質リスクアセスメントに基づく健康診断の考え方に関する手引き」の公開

2024年5月17日、日本産業衛生学会 産業医部会幹事会 化学物質管理ワーキンググループでの検討の結果から、「化学物質リスクアセスメントに基づく健康診断の考え方に関する手引き」（以下「本手引き」という）が公開された。

本手引きは、厚生労働省から令和5年10月に発表された「リスクアセスメント対象物健康診断に関するガイドライン」に基づき、労働安全衛生規則第577条の2第3項で規定される健康診断について、実施要否や項目等に関する意見を聞かれる産業医等が、どのような情報を基にどのように考えればよいのかという指針となるものとして検討されたものである。

なお、本手引きの構成は以下の通り。

はじめに ～本指針の趣旨と目的～

1. 大前提はばく露低減措置を行うこと
2. 第3項健診と産業医の役割
3. 濃度基準値がない化学物質についての対応整理
4. 第4項健診の要否に関する考え方について
5. リスクアセスメント対象物健康診断を実施すると決定した場合の考え方

＊第3項目健診とは労働安全衛生規則第577条の2第3項で規定される健康診断
＊第4項目健診とは労働安全衛生規則第577条の2第4項で規定される健康診断

※詳細については右記のURLより　https://sangyo-ibukai.org/archives/tebiki_ra-kenshin-chemicals_202405.pdf

「産業保健21」118号アンケートのお願い

「産業保健21」では、産業保健活動の実務に資する具体的、実践的な情報を提供しています。今後、更なる充実を図るため、アンケートにご協力いただきますようお願いいたします。

●問い合わせ：
（独）労働者健康安全機構　勤労者医療・産業保健部産業保健課

※このアンケートでご記入いただいた内容は『産業保健21』制作の参考にさせていただきます。
下記のいずれかの方法でご回答いただきますようお願いいたします。

QRコード：右のQRコードを読み込み、表示された登録ページからご回答ください。

ホームページ：下記ホームページのアンケートページからご回答ください。

https://www.johas.go.jp/sangyouhoken/johoteikyo/tabid/2463/Default.aspx